

目指せ！ストラド

- 2013.12.09 Monday
- 23:36

2013年も、はや12月。

ここ「楽々日和」は11月にNHKで放映された「[ストラディバリウスの謎](#)」から感じた独り言ということで今年を閉めたいと思います。この番組、観られた方は多いかもしれませんが、大変惹きつけられました。イタリアの名器(愛称ストラド)現代でも科学の力をもってしてもその音を出すことはできないとのこと。番組はアメリカ在住のこの楽器の1台を所有する五明さんという演奏家が科学者や楽器製作者のストラドへの熱い思いを追って旅するという番組。板の厚さや構造を知るためCTスキャンにかけたり、ニスの科学的な分析、製作者たち独自の分析を続ける様子は感動もの。中でも歌にも言えることだな…と聞き入ったのは日本の音響研究メーカーが、諏訪内さん、徳永さんら3人のストラドを無音室にて演奏者の四方八方にマイクを48本備え、響きの飛んでゆく方向を調べたシーン。あのイツァーク・パールマンは「音の質が信じられないほど素晴らしい。音の中に『芯』のようなものがある。…まるで中にマイクが仕込んであるかのようで、ホール of 1列目から最後列まで澄んだ音色が届く。」

なぜか？

この実験でわかったことは、3台の楽器の音に指向性があるということ。

要するに音量ではなく、響きの方向が一定方向に飛ぶことがパールマンの語る、いい音の条件のよう。

声もそんな気がします。ただの大きな声の集まりでは限られた空間での溶け合わない演奏になる。

響きに指向性を持ちつつ、後ろまでクリアに届けるにはどうしたらいい？



そこで……

今年も大変お世話になったボイトレ毛利先生ご夫妻、
どうぞ来年もその点をアドバイスお願いいたします。

写真は2日の豊田市民合唱団のクリスマス演奏会での和雄先生。

演奏といい、曲の合間のインタビューの受け答えといい、お人柄の出たサイコーなコンサートでした。

美奈子先生が惚れた理由がわかったカメラ小僧📷

今年も1年、取り留めもない駄文を読んでいただき、
ありがとうございました。皆様、どうぞ良い年をお迎えくださいまし。